

かりがなければ暗いだろうし、冬はすきま風が入ってくるに違いない。通りに面して店舗はあるが、生活感がなく観光客相手の店ばかりで、地元の人たちの姿が見えない。石井氏に伺うと、みなさん車で遠くのスーパーマーケットに行くという。ガソリンスタンドも同様とのこと。

戦後、ドイツでは破壊された町を中世の町並みに営々と復元していった、と聞いている。おそらく中世の世界こそ自分たちの心の寄り所である。そういった矜持があったものと思われる。その伝でいけばこの奈良井宿も観光面でいかにどの貢献をしているかわからないが、それよりも何よりも伝統や誇りを保ち、自分たちの寄って立つべき存在意義を明確に意識している、そんな風に思えてくるのだ。



議長の目^{アイ}ランド



***** 防災について考える *****

日本における近年の自然災害は、ざっと数えても地震、津波の襲来、火山の噴火、火災、集中豪雨や鉄砲水による水害、台風による暴風や豪雨、地すべり(山津波)による土砂災害、がけ崩れ、竜巻やダウンバースト(積乱雲や局地的な積雲の中で発達する下降気流が地表面に衝突して四方に発散する爆発的な吹き出し風)、雹や雷の被害等。

これらは日常生活に突然襲って来て、平穏な生活が一変することになる。又、災害時に発生する電力供給停止(停電)、上水道の供給停止、ガスや燃料油の供給停止、通信網の停止や制限、医療機関の制限、健康面、衛生面では感染症の蔓延、食料、飲料水、日用品の不足等々、一度大きな災害に遭遇すると悲惨な状況になる。

「備えあれば憂いなし」常日頃から何が起きても慌てることなく、行動することが第1と思う。そのためにも、いろいろな事を想定して訓練を積み重ね、有事の時に備える。

これからは絶対安全、絶対安心、想定外などは有り得ない。

議長 戸田 邦 市